

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B 2)

(11) 特許番号

特許第3332345号
(P3332345)

(45) 発行日 平成14年10月7日(2002.10.7)

(24) 登録日 平成14年7月26日(2002.7.26)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I
C 0 2 F 1/78		C 0 2 F 1/78
A 6 1 L 2/18		A 6 1 L 2/18
B 0 1 D 53/04		B 0 1 D 53/04
	1 0 1	53/26 1 0 1 A
B 0 1 F 1/00		B 0 1 F 1/00 A

請求項の数 1 (全 8 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号	特願平10-155678	(73) 特許権者	501427489 株式会社マサキ 大阪府大阪市中央区谷町5丁目3番17号
(22) 出願日	平成10年6月4日(1998.6.4)	(72) 発明者	田村 耕三 大阪府東大阪市長田東2-1-27 株式会社タムラテコ内
(65) 公開番号	特開平11-347575	(72) 発明者	戎脇 登 大阪府東大阪市長田東2-1-27 株式会社タムラテコ内
(43) 公開日	平成11年12月21日(1999.12.21)	(74) 代理人	100080746 弁理士 中谷 武嗣
審査請求日	平成12年3月15日(2000.3.15)	審査官	真々田 忠博

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 殺菌水発生装置

1

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】 オゾン発生体1と、該オゾン発生体1に送る空気の湿気を除去する空気乾燥剤Bとヒータ107とを収納した空気乾燥ケーシング67と、該空気乾燥ケーシング67に逆流空気Dを送るエアープンプ116と、を外箱81に内蔵し、さらに、該外箱81内の温度が所定の温度以下になるのを検出して上記ヒータ107と上記エアープンプ116を通電作動させるための温度センサーを設け、上記ヒータ107と上記エアープンプ116の上記通電作動による上記エアープンプ116からの逆流空気Dにて上記空気乾燥ケーシング67内の空気乾燥剤Bを乾燥再生すると共に、上記ヒータ107を収納した上記空気乾燥ケーシング67から吐出する逆流空気Dによって上記外箱81内に温風を充満させて凍結を防止するように構成したことを特徴とする殺菌水発生装置。

2

【発明の詳細な説明】

【0001】
【発明の属する技術分野】本発明は、殺菌水発生装置に関する。

【0002】
【従来の技術】オゾンは、一般に、酸素または空気中で放電を行なうことによって生成され、殺菌力、強い酸化分解力を有することが知られている。オゾン水は従来、工業用や医療用等の業務分野で使用され、大型の設備にて利用されてきた。

【0003】
【発明が解決しようとする課題】従来のオゾン水発生装置(設備)は大型であり、これを家庭用に応用しようとしても、小型化が難しく、短期間でオゾン発生効率が低下して、オゾン水(又はオゾン殺菌浄水)が生成され難